

評価項目の見直しの考え方(案)

資料1

別添

現行の評価項目	項目の目的	項目見直しの考え方	評価項目の見直し案 (赤字は見直し箇所)
<b>1. 利用者利便の向上の観点からの評価項目(倍点)</b>			
<b>(1) 運賃水準の低廉化の努力</b>			
旅客キロあたり旅客収入の過去5年間の変化率が各社間平均を下回っていること	運賃低廉化による利用者利便向上	(変更なし)	旅客キロあたり旅客収入の過去5年間の変化率が各社間平均を下回っていること
<b>(2) 安全の確保</b>			
以下の指標毎の各社間順位点の合計 ・過去5年間の機材品質に係る不具合に起因する欠航又は15分を超える遅延の発生率 ・過去5年間に義務報告した安全上の支障を及ぼす事態に対して90日以内に必要な再発防止策を策定した割合	各社の安全への取組を促し、安全性を向上させることによる利用者利便向上	「機材品質に係る不具合に起因する欠航又は15分を超える遅延の発生率」については、各社とも極めて低水準で評価における有意な差がなく、また、機材品質の向上は安全運航に必要不可欠なものであることに鑑み、一定の割合内収まっている場合に加点する方式に変更。	以下の指標毎の合計 ・過去5年間の機材品質に係る不具合に起因する欠航又は15分を超える遅延の発生率が <b>一定割合以下であること</b> ・過去5年間に義務報告した安全上の支障を及ぼす事態に対して90日以内に必要な再発防止策を策定した割合の各社間順位点
<b>(3) 全国的な航空ネットワークの形成・充実への貢献</b>			
<b>① 全国規模での航空ネットワークの形成・充実への貢献</b>			
以下の指標の各社数値の合計値に占める各社数値の割合 ・地方路線(幹線及び羽田路線以外の路線(離島路線を含む))の路線数	全国路線網の形成	(変更なし)	以下の指標の各社数値の合計値に占める各社数値の割合 ・地方路線(幹線及び羽田路線以外の路線(離島路線を含む))の路線数
以下の指標の各社数値の合計値に占める各社数値の割合 ・地方路線(幹線及び羽田路線以外の路線(離島路線を含む))の旅客キロ	地域/利用者の利便性向上	離島航空路など短距離を多頻度で運航する航空会社の負担を考慮し、利用者利便の確保への貢献を的確に評価。	以下の指標の各社数値の合計値に占める各社数値の割合 ・地方路線(幹線及び羽田路線以外の路線(離島路線を含む))の <b>便数</b>
<b>② 羽田空港と地方の空港との間の路線の形成・充実への貢献</b>			
羽田路線の全路線便数に占める幹線以外の路線の便数の割合が各社間平均を上回っていること	羽田の地方路線ネットワークの充実	(変更なし)	羽田路線の全路線便数に占める幹線以外の路線の便数の割合が各社間平均を上回っていること
以下の指標の各社数値の合計値に占める各社数値の割合 ・3便ルール対象路線の便数	少便数路線の維持及び利用者利便確保	(変更なし)	以下の指標の各社数値の合計値に占める各社数値の割合 ・3便ルール対象路線の便数
<b>(4) 新規航空会社の競争環境整備による競争の促進</b>			
保有機材数が12機に増枠の時点で達する計画が無いこと			使用せず ※特定既存航空会社(平成24年当時は新規航空会社)は全て12機以上に達しているため
<b>2. 航空会社の効率的な経営の促進の観点からの評価項目</b>			
旅客キロあたり営業費用の過去5年間の変化率が各社間平均を下回っていること	事業者のコスト削減努力	(変更なし)	旅客キロあたり営業費用の過去5年間の変化率が各社間平均を下回っていること
従業員一人あたり営業収益の過去5年間の変化率が各社間平均を上回っていること	事業者の生産性向上	(変更なし)	従業員一人あたり営業収益の過去5年間の変化率が各社間平均を上回っていること
<b>3. 発着枠の効率的な使用の観点からの評価項目</b>			
羽田空港の1運航当たりの輸送人員が羽田空港平均を上回っていること	利用者ニーズを踏まえた羽田発着枠の効率使用	他の評価項目と同様、各社間平均で比較のうえ評価。	羽田空港の1運航当たりの輸送人員が <b>各社間平均</b> を上回っていること
<b>4. その他</b>			
行政処分を過去5年間受けていないこと	航空運送事業の適確な遂行	(変更なし)	行政処分を過去5年間受けていないこと
<b>(全体)</b> 各評価項目の重みを一定に保ち、評価項目全体における各社の自助努力が適確に反映されるようにするため、該当する航空会社の数に応じて配分される点数が大きく左右される現行方式から、該当する航空会社に一定の点数を配分する方式に変更する。			

※過去5年間の変化率とは、評価の期初年度と期末年度の間での変化率を指す。

※1. (3)、3. は、直近実績による。